

# 鐵 と 鋼 第十七年 第十二號

昭和六年十二月二十五日發行

## 論 說

### 鐵 鋼 業 の 現 狀

(日本鐵鋼協會第七回 講演大會委員長の開會の辭)

野 田 鶴 雄

今日より 21 日迄隨意見學の日を入れて 5 日に亘つて此八幡市に於て我日本鐵鋼協會の第 7 回講演大會が開催せらるゝに當りまして 不肖委員長として茲に開會の御挨拶を申述べます事は誠に光榮の至りと存じます。

此十數年來本邦に於ける鐵と鋼に對する學術的及工業的兩方面に於ける研究及作業の進歩は頗る著しきものでありまして或特種の仕事に於ては所謂歐米先進國を凌ぎ得るものもありまして、一般に何れの製鐵鋼所に於ても學理と實地とが頗るよく調和されて相互に進みつゝあります事は、御同慶至極の事であります。

初めて此鐵鋼協會が出来まして暫くの間は協會幹部の方々は毎會の講演者や雑誌の寄稿者を御集めになるのに随分苦心されたものであつた事を承つて居りますが近來は夫が反對になりまして講演時間を適當に制限する上に今大會の如き 2ヶ所に講演會場を設けて同時に御講演を願ふ様な事に進歩したのであります。尤も人の體には目が 2 つ耳

が 2 つありますから。夫でもいゝ様なものでありますが不幸にして頭と體は一つしかありませんから、御聴きになる方には甚だ御不自由な事と恐縮の外はありません。其上に又講演して下さる方は折角耐なる時に司會者がベルを鳴らして講演者並に熱心なる聴講者の御邪魔をするのであります。

今回の大會に參會を申込まれた方々の數は合計實に 180 名でありまして遠きは北海道、南滿洲から遙々御集りになつて居ります。其内講演をなさる方が 40 名でありまして此盛況は鐵鋼協會の大會として實に空前の事と存じます。

此の如き盛會を前に致しまして翻つて本邦諸外國の製鐵鋼事業の經濟的現狀を見ますと今日程各國共需要の夥しき減少と價格の甚しき低下に苦しんで居る時はないのであります。茲に最近世界の銑鐵及鋼塊（鋼鑄物を含む）の統計を御覽に入れます。

本邦の銑鐵の内には兼二浦は勿論滿洲の鞍山及本溪湖を入れて居りますが此減産率の少ないのは

第 1 表 世界主要國銑鋼生産高比較表 (單位千噸)

種 別 國 別	銑 鐵			鋼塊及鋼鑄物		
	最大生産年 1929年月平均 (昭和4年)	本 年 1931年月平均 (昭和6年 上半期)	割合	最大生産年 1929年月平均 (昭和4年)	本 年 1931年月平均 (昭和6年 上半期)	割合
全 世 界	8,164	5,078	62%	9,987	6,328	63%
日 本 (鮮 滿 共)	130	119	92	191	144	75
米 國	3,580	1,881	53	4,599	2,584	56
獨 逸	1,117	557	50	1,354	768	57
英 國	643	340	53	816	449	55
佛 國	864	743	86	808	693	86
白 耳 義	337	263	78	342	252	72
ル ク セ ン ブ ル	242	174	72	225	169	75
伊 太 利	53	43	77	188	125	66
ス エ デ ン	41	36	88	60	44	76
カ ナ ダ	91	51	56	117	78	67
チ エ コ ス ロ バ キ ャ	139	102	74	179	135	74
波 蘭	59	33	58	115	97	84
ロ シ ャ	360	393	109	409	409	100
ザ ー 領	175	137	78	184	141	77
英 印 度	114	不明		49	不明	

備考 1) 全世界産額は製鐵業參考資料及 Iron and Coal Trade Review 6 年 8 月 23 日發行に依る  
 2) 日本産額は鑛山局調に依る  
 3) 其他各國は國際聯盟刊行 "Monthly Bulletin of Statistics" による

經營上の都合で熔鑛爐の火をおとすよりは賣れなくても貯藏して置く方が利益だといふ勘定から作業を繼續して居る處がある爲めでありまして其爲今日銑鐵のストックは約 50 萬噸になつて居るのであります。50 萬噸と申しますと昭和 4 年の總出銑量の 38.5% 即ち 4、5 ヶ月分に相當するのであります。

茲で更に本邦の鋼材の需要に就て申しますと此の第 2 表の通りでありまして一昨年の昭和 4 年は御存じの如く本邦に於ける今日迄の最大需要の年でありまして、普通鋼材のみに就て申せばタイヤ、アキスル鋼管、ブリキ類迄を入れまして 270 萬噸であつたのであります。今年此正月から 6 月末迄の統計を 2 倍したものは此の如く急轉直下に 169 萬噸に下り實に 100 萬噸以上減少したのであります。270 萬噸から見ますと其 38.4% の減少であります。

獨逸でも盛にやかましく言つて居る様でありま

すが合理化して大規模生産設備に直して夫が能力の半分も働かぬと言ふ事になつては非常な惱みでありますし、又本邦の如く小さい處は小さい處で家庭で申せば所謂最低生活費に喰込む始末であります。一方價格の低下に就ては銑鐵は印度銑との競争と需要減との爲めに 1 噸 25 圓以下で賣られ寧ろ 20 圓に近い數字で取引される様に聞いて居ります。鋼材の方は丸鋼と鋼板の小賣相場の例によりますと實に此第 3 表の通りであります。

丸鋼は目下歐洲大陸のものが本邦の沖着即ちアントワープから船積されて神戸、横濱等迄の船賃も入れて英貨にて 1 噸 £3-18-6 で參ります。英國の金輸出禁止後は米貨建になりまして 18 弗 45 仙になつて居ります。之に陸揚費や關稅を加へましたものが前者は 58 圓 74 錢、後者は 57 圓 58 錢にしかならぬのであります。丸鋼は昭和 3 年に比べて 54%、鋼板は昭和 4 年に比べて 51%



第 3 表 鋼材東京市價調 (純當)

	昭和元年	同 2 年	同 3 年	同 4 年	同 5 年	同 6 年	
丸 鋼	1月	105圓	91圓	90圓	111圓	82圓	55・17圓
	2	102	89	90	107	79	58・33
	3	101	87	92	105	77	58・17
	4	100	86	95	105	77	59・17
	5	95	86	101	101	76	58・17
	6	95	87	106	98	74	57・50
	7	94	87	105	96	72	57・83
	8	93	87	115	94	68	58・33
	9	96	89	126	91	63	57・50
	10	96	90	133	90	62	
	11	95	93	118	87	60	
	12	93	91	113	83	57	
平均 (昭和元年に 對する割合)	97(100%)	89(92)	107(110)	97(100)	71(73)	平均 57・80 割合 60%	
鋼 板	1月	126圓	102圓	111圓	113圓	98圓	48・66圓
	2	121	109	111	113	94	58・33
	3	123	111	112	117	92	64・67
	4	117	112	111	126	94	64・50
	5	107	118	115	131	97	64・67
	6	107	126	120	135	89	63・67
	7	103	117	118	138	86	62・67
	8	101	113	116	122	83	63・00
	9	101	116	116	125	77	65・33
	10	106	121	115	121	77	
	11	110	119	113	116	67	
	12	105	113	111	108	51	
平均 (昭和元年に 對する割合)	111	115	114	122	84	61・72 最高値即昭和 4 年 に對する割合 51%	

備考 1. 昭和 5 年迄の分は製鐵業參考資料に依り、同 6 年の分は販賣旬報に依り  
 2. 丸鋼の同 5 年 5 月以前は四分丸、同 6 月より 12 月迄は 16 耗以上ベース、同 6 年分は 19 耗  
 及 25 耗の平均なり。  
 1. 鋼板は 48 物にして其の厚さ、昭和 5 年 5 月以前は 1 分、同年 6 月以降 45 耗、6 年分は 6 耗なり

に下つたのであります。本邦の物價でこんなに下つたものは矢張製鐵事業にも關係のある硫酸アンモニヤ位のものでありませう。官吏社員の俸給も下りましたが吾々の作る鐵や鋼程は幸にまだ下つて居りませぬ、しかし幸に今日本邦に於きましては鑛石、石炭の値が下り一般物價の下落で勞銀も下りましたから、スクラップや銑鐵が安く手に入る量丈の處では鋼塊も安く出來製品も安く出來て外國からの安いものとどふにか競争してやつて居りますが、銑鐵の方は丸棒、鋼板の様なわけには參りません。茲に私が此エキスパートの御集りになつて居る處で申上げたい事はラボラトリーの研究と工場の實地と相待つて製鐵鋼事業のあらゆる

方面に亘つて能率を進めて生産費を下げる事に於て外國よりも一足先に出る事を考へねばならぬと申す事でありませぬ。

夫には技術方面のみに就て申しまして原料諸鑛石、各種燃料、爐材等の研究、各種製鐵鋼爐及壓延、鍛鍊、加熱、調質等の設備と操業の研究、運搬諸設備の計畫と操作の研究、各種副生物の利用研究等やるべき事は實に多種多端であります。要するに經濟的に最も安くなる天然資源から出て來る諸種の原料を用いて途中の操業を最能率よく作業を進め合格 100%の製品を造り其生産費を低下するといふ事に歸着するのであります。

「國危くして忠臣出で家貧にして孝子顯はる」と

云ふ語がありますが本邦の製鐵鋼界の現在の此受難期は寧ろ斯業に携はる吾々への絶好の機會とも申すべきもので茲にお集りの皆様の内から所謂大忠臣大孝子の出現を待つてやまない次第であります。之を以て私の開會の御挨拶と致します。

此機會に本大會に關する事務的の事を二三申し上げますが本大會々場と致しました、此製鐵所新研究所はやつと先月から引越を初めましてまだ此机のニスも充分に乾いて居ない様な始末で殊に第2講演室の如きは事務室の机を片付けて一時利用したものでありますから講演場としての體裁も整はずそこで講演なさる方々には誠に御氣の毒に存する次第であります。

夫から製鐵所を見て頂くのは19日になつて居りますが其日は時間に餘裕がありませんので此研究所又は内部の見學を今日と明日の午後零時20分から講演の開始される1時迄2日間に亘つて1時間20分あてゝ居りますから御自由に御視察願います。

又御泊りになる宿屋の方は元來八幡には宿屋らしい宿屋がありませんでしたので前會の大會には一部少數の方に當所クラブを提供したこともありましたが、今度は市中に2軒程稍々宿屋の體を備へたものが出來ましたので其方に泊つていただく事にして俱樂部の方は使用せぬ事に致しました。夫等の宿屋の部屋割其他に就ては當事者たる委員は非常に心配致しまして公平と云ふ事を第一にした積りでありますから其志丈けを御くみとりを願ひます、おれの部屋は風呂に遠くて困つたなどとの御小言もありませんがどうか御不自由の處は御我慢を願ふより外御座いません。但し將來の爲め一般の準備方法、宿屋の取扱、其他一切の事に亘りまして不都合と御氣付の點は忌憚なく委員連に御申聞けを願つて今後の参考に致したいと存じます。

貴重なる御時間を前置きに長く御邪魔をして失禮致しました。(大拍手起る)

世界各國銑鐵市價一覽表(昭和6年11月10日調)(銑鐵共同組合印刷物より)

國名	地名	銑種	單位	市價	邦價換算		摘 要
					爲替率	換算	
印度	カルカッタ貨車乘	鑄物用 3 號	英噸	留比 65.00	166¼	39.10	10月8日ゼ・インヂアン・ト レード・ジャーナル誌
米 國	ピッツバーグ貨車乘	" 2 號	"	17.5	49¼	35.53	10月8日 the Iron Age 誌
"	シカゴ "	鹽基性銑	"	16.5	"	33.50	"
"	太平洋岸 "	鑄物用 2 號	"	17.5	"	35.53	"
"	太平洋岸 "	鑄物用 銑	"	23.0	"	46.70	"
獨逸	工 場	鑄物用 (Si25)	噸	78.00	2.05½	37.96	10月19日 Steel 誌
"	"	鹽基性銑	"	85.5	"	41.61	"
白耳義	"	鑄物用 (Si25)	"	460法	12.45	36.95	"
"	"	鹽基性銑	"	415"	"	33.33	"
佛 國	"	鑄物用 (Si25)	"	280"	"	22.49	"
"	"	鹽基性銑	"	260"	"	20.88	"
英 國	グリーンランド工場	鑄物用 1 號	英噸	61志	¾-⅞	24.92	10月17日 ロンドンタイムス週刊
"	グラスゴー工場	"	"	72"	"	28.94	"
日 本	阪 神 河 岸	鑄物用 3 號	噸	—	—	26.00	大口 推 定
"	"	鹽基性銑	"	—	—	25.00	"

(附記) 1. 印度銑カルカッタ市價は1927年(昭和2年)9月以降變動なし、從て以上65留比を爲替136留比即ち英國の金本位停止以前の割合にて邦貨に換算すれば英噸47圓79錢となる。  
2. 佛國に於て特に廉價(邦貨換算)なるは其理由判明せず、但し此廉價を以てするも運賃其他諸掛を考慮せば本邦へ輸入の不可能なるは明白なり。